

## 2 運転事故に関する事項

### 2.1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

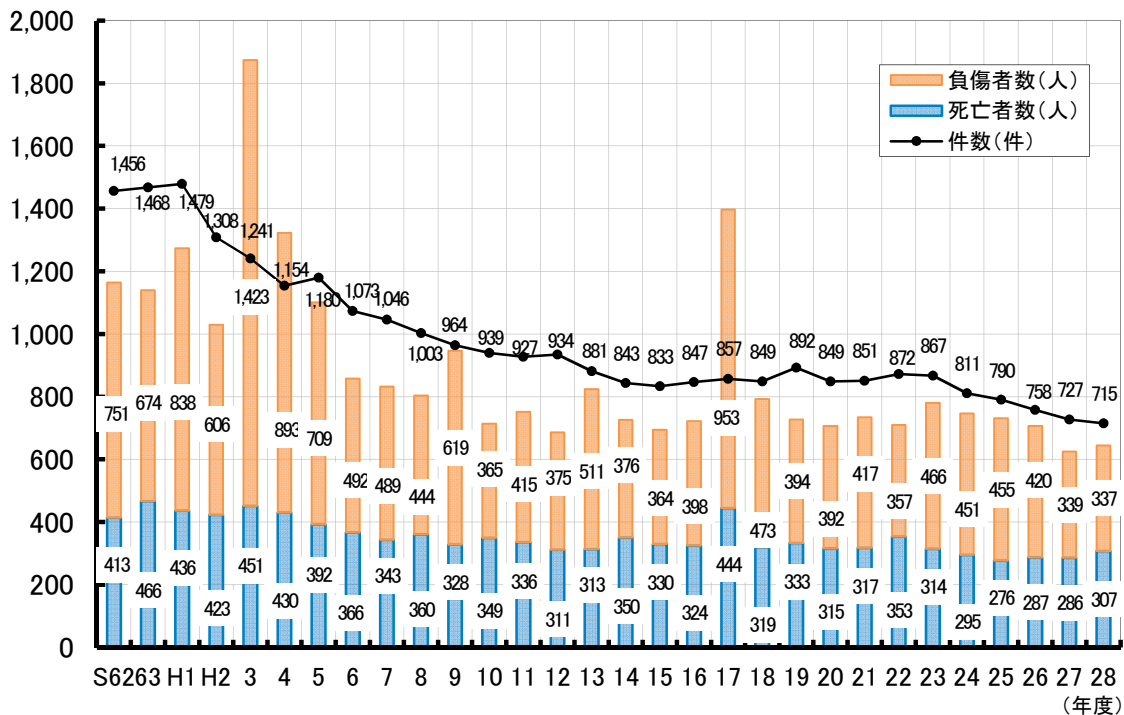
#### (1) 運転事故の件数及び死傷者数の推移

○鉄軌道における運転事故<sup>8</sup>件数は、長期的には減少傾向にあり、平成25年度から700件台で推移しています。平成28年度は、715件で対前年度12件減でした。

○平成28年度に発生した運転事故による死亡者数<sup>9</sup>は、307人で対前年度21人増で、近年は300人前後でほぼ横ばいとなっています。

○また、運転事故による死傷者数<sup>9</sup>は、644人で対前年度19人増でした。運転事故による死傷者数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にありますが、JR西日本福知山線列車脱線事故が発生した平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故が発生した年度では死傷者数が多くなっています。

図5： 運転事故の件数及び死傷者数の推移



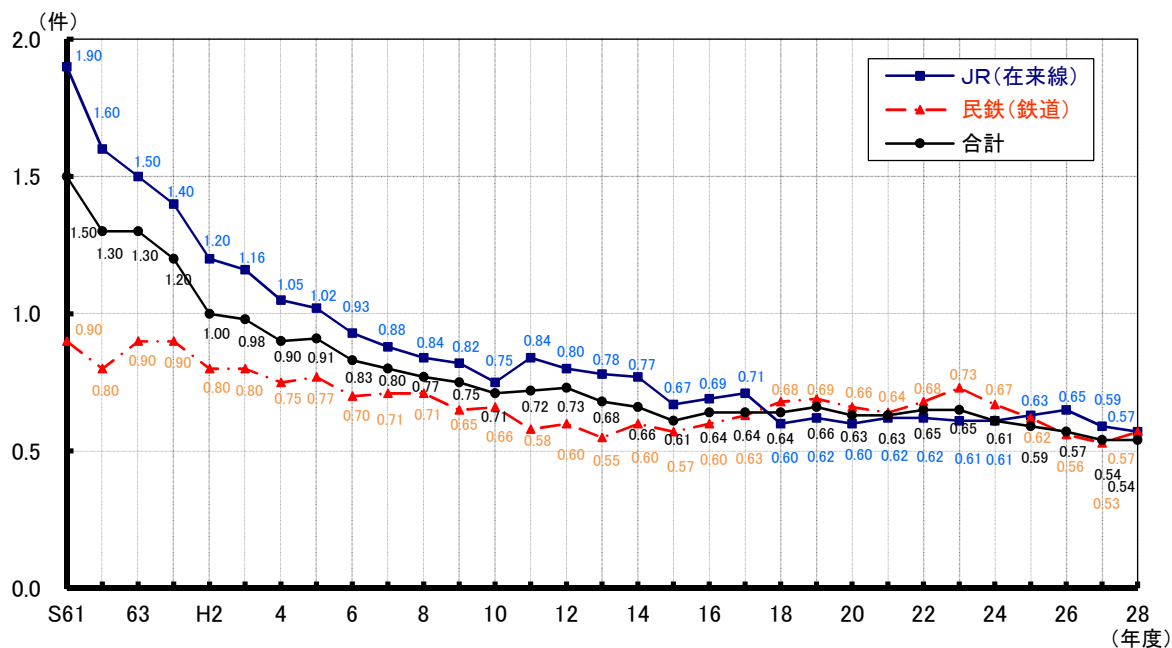
<sup>8</sup> 運転事故の種類については、後掲の「用語の説明」をご覧ください。なお、自殺を直接原因とするものは、人身障害事故、踏切障害事故及び道路障害事故に該当しませんが、一部に自殺かそうでない判別できないものがあり、それが人身障害事故、踏切障害事故及び道路障害事故として、それぞれ国へ報告されています。

<sup>9</sup> 運転事故による死亡者数および死傷者数には、自殺によるものは含めないこととしています。また、自殺の行為に直接的に巻き込まれたことにより第三者が死傷した場合についても、同様な扱いとしています。

## (2) 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移

○列車走行百万キロ当たりの運転事故件数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にあり、平成25年度から0.5件台で推移しています。平成28年度は0.53件でした。

図6：列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移



※ グラフ中の「合計」は、JR(在来線+新幹線)と民鉄等(鉄道+軌道)の合計です。

## (3) 運転事故の種類別の件数及び死傷者数

○平成28年度に発生した運転事故の内訳は、線路内やホーム上での列車との接触などの人身障害事故が429件(60.0%)で対前年度13件増、踏切道における列車と自動車との衝突などの踏切障害事故が222件(31.0%)で対前年度14件減、路面電車と自動車等が道路上で接触するなどの道路障害事故が43件(6.0%)で対前年度20件減、列車事故<sup>10</sup>は19件(2.7%)で対前年度9件増でした。

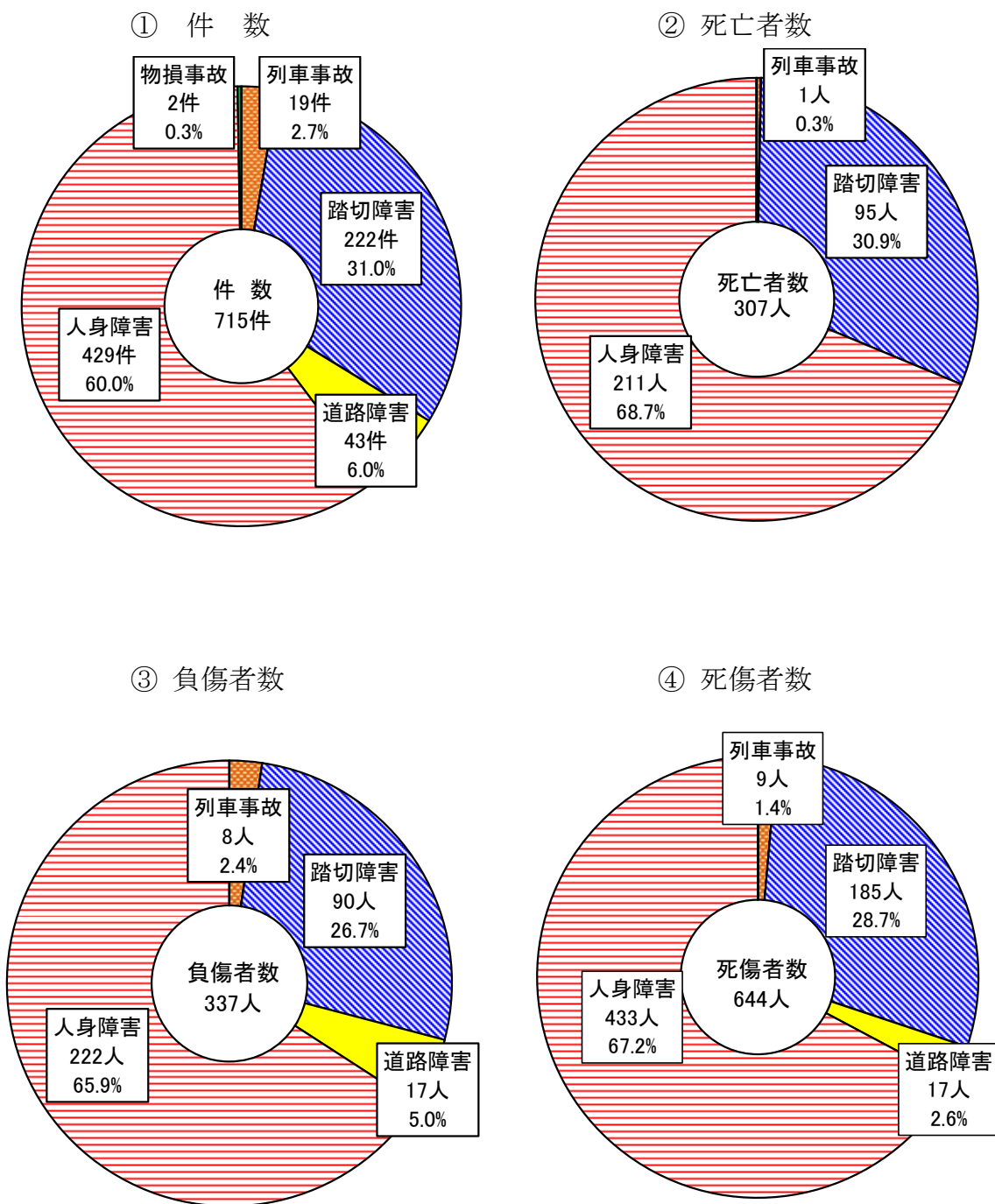
○平成28年度に発生した身体障害者の方に係る運転事故は、7件(視覚障害者の方の事故が3件、聴覚障害者の方の事故が2件、肢体不自由の方の事故が2件)でした。

○平成28年度に発生した運転事故による死亡者数は、(1)に記述したとおり307人で、その内訳は、人身障害事故によるものが211人(68.5%)で対前年度26人増、踏切障害事故によるものが96人(31.2%)で対前年度5人減となっています。

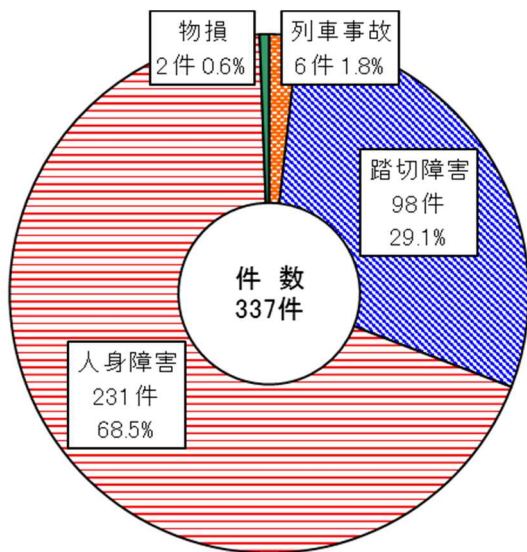
<sup>10</sup> 「列車事故」とは、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。)及び列車火災事故(軌道における車両火災事故を含む。)をいいます。

- 平成28年度に発生した踏切事故件数は、223件(31.2%)でした。踏切障害事故222件のほか、踏切障害に伴う列車脱線事故が1件ありました。
- 平成28年度に新幹線において発生した運転事故は、平成28年4月14日にJR九州の九州新幹線で発生した列車脱線事故1件と、平成28年4月19日と5月7日にJR東日本の東北新幹線で発生した人身障害事故2件の計3件です。

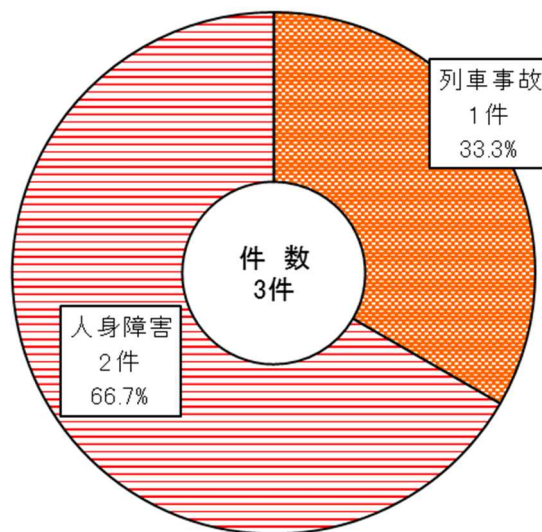
図7： 運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成28年度)



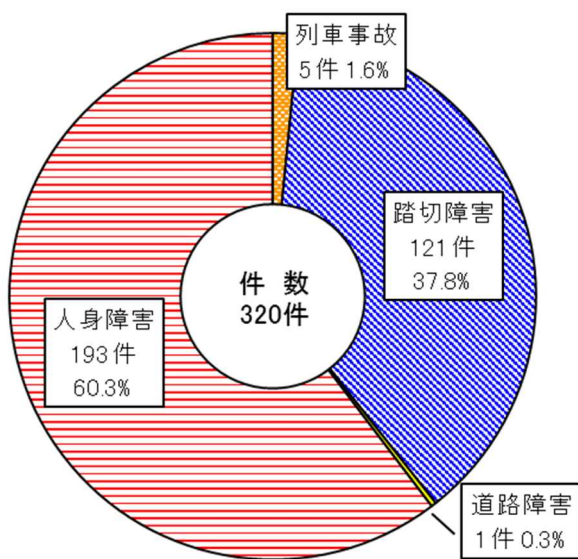
⑤ JR(在来線)の件数



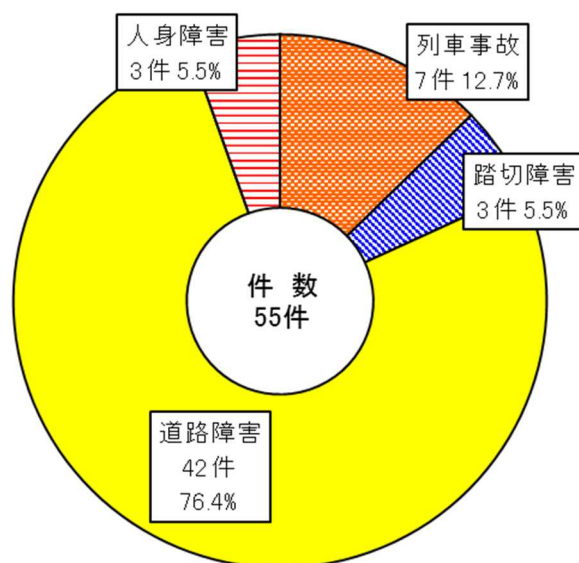
⑥ JR(新幹線)の件数



⑦ 民鉄等(路面電車以外)の件数



⑧ 民鉄等(路面電車)の件数



(4) 平成28年度における主な事故の発生状況

○平成28年度の主な事故(5人以上の死傷者又は乗客、乗務員に死亡者が発生した事故)は、次のとおりです。

表3: 主な事故の発生状況(平成28年度)

年月日	事業者	場 所	事故種類	死 亡	負 傷	脱線両数	概 要
H28.4.5	札幌市交通局	山鼻西線ロープウェイ 入口停留場～ 西線 16 条停留場間	道路 障害	0	5	0	当該車両運転士は、対向する一般車両が軌道敷内に進入してくるのを発見したため、ただちに警笛吹鳴及び急制動の措置を執ったが間に合わず、衝突した。これにより乗客 4 名と公衆 1 名が負傷した。
H28.4.19	天 竜 浜 名 湖 鉄 道	天竜浜名湖線桜木駅 ～いこいの広場駅間	踏切 障害	0	29	0	惰行中、踏切道の手前約 100 mで踏切内に進行方向右側から進入し停車している大型バスを発見。直ちに非常停止手配を執るも及ばず衝突した。これにより列車乗客 5 名とバス乗客 24 名が負傷した。
H28.10.1	JR九州	日豊線佐土原駅～ 日向住吉駅間	踏切 障害	0	6	0	踏切内で停滞しているトラックを認め、直ちに気笛吹鳴及び非常停止手配を取扱うも衝突した。これにより列車乗客 6 名が負傷した。

## 2.2 列車事故の発生状況

○平成28年度に発生した列車事故件数は、2.1(3)に記述したとおり、運転事故全体の2.7%に当たる19件で対前年度9件増でした。死者数は、踏切障害に伴う列車脱線事故による1名で対前年度1人増、死傷者数は、9人で対前年度10人減でした。

図8：列車事故の件数及び死傷者数の推移

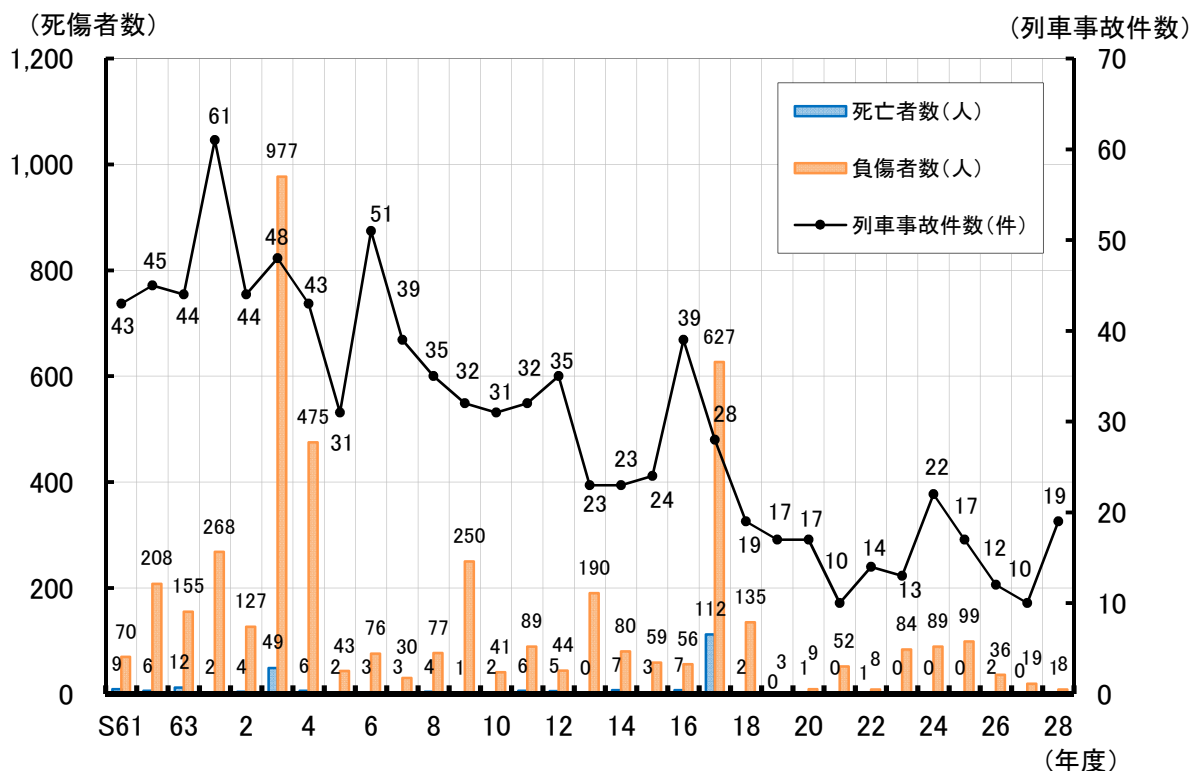
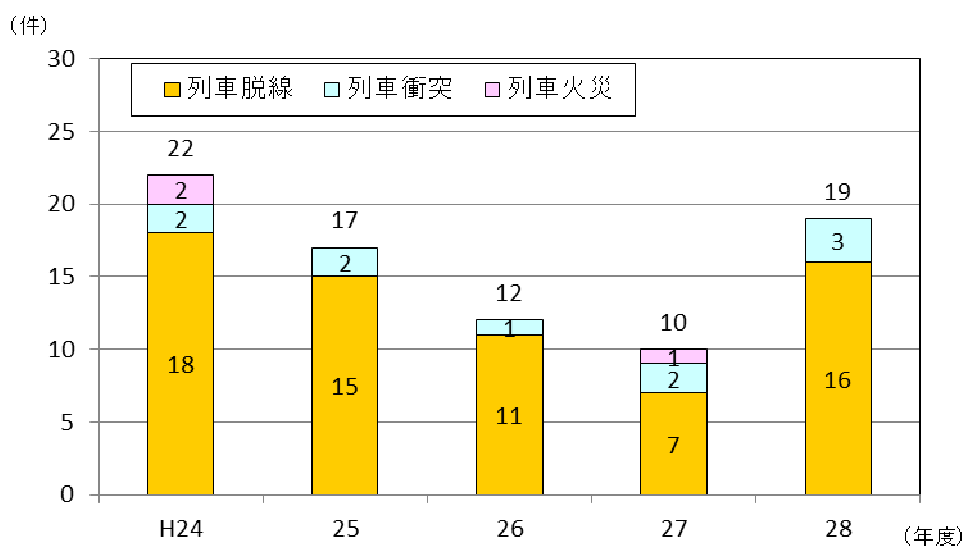


図9：列車事故の件数の内訳(過去5年間)

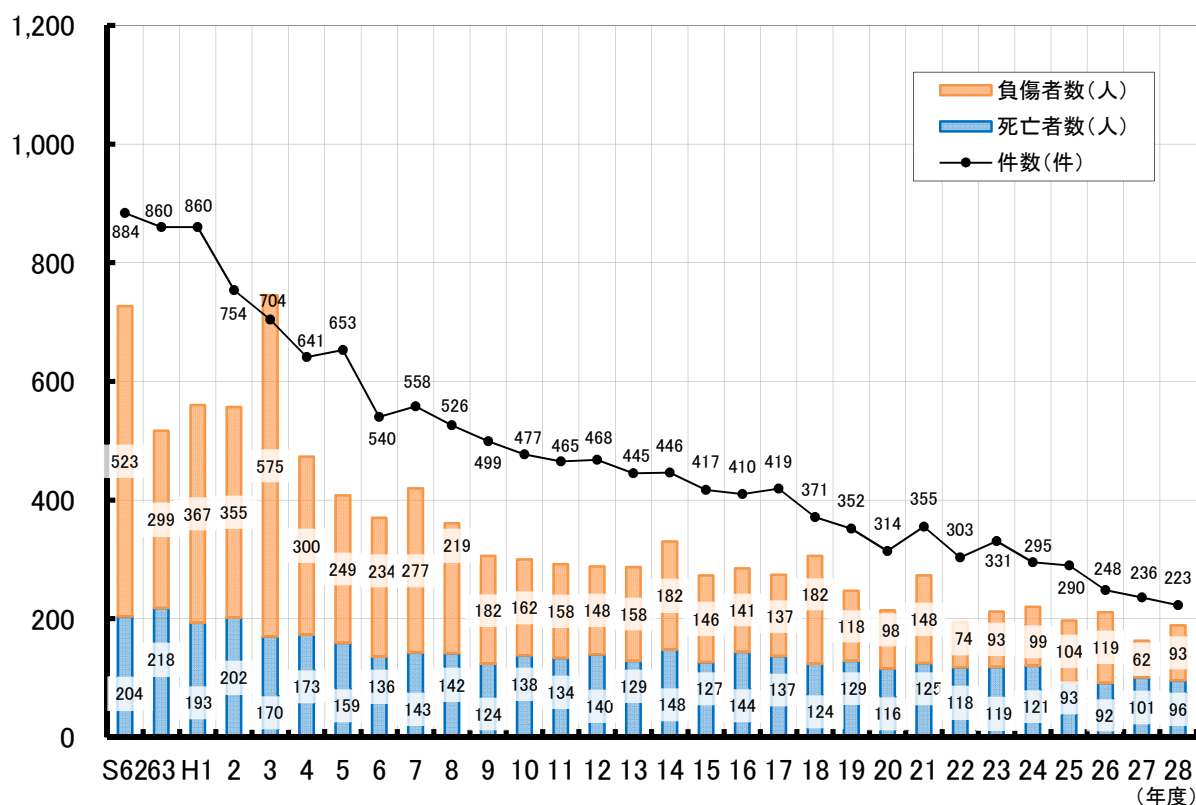


## 2.3 踏切事故の発生状況

### (1) 踏切事故の件数及び死傷者数の推移等

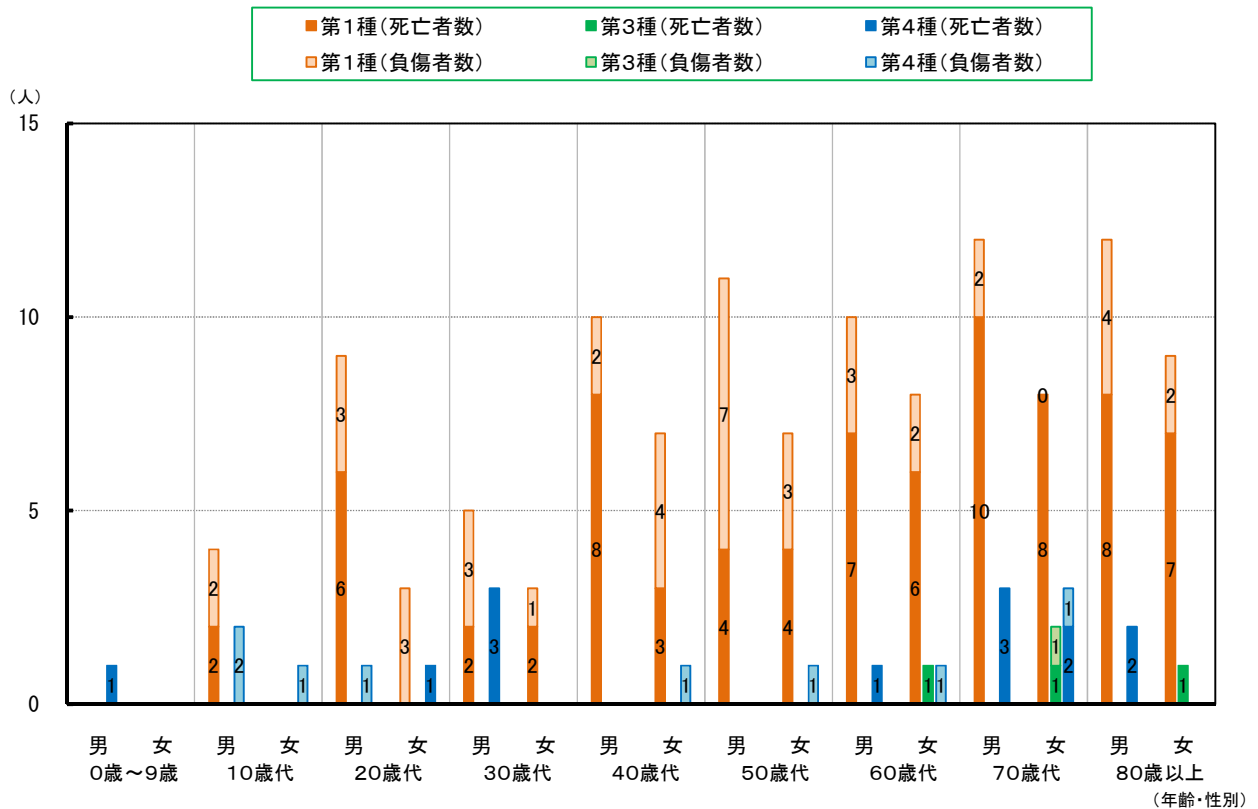
- 平成28年度に発生した踏切事故<sup>11</sup>は、2.1(3)に記述したとおり、運転事故全体の31.2%に当たる223件で対前年度13件減、踏切事故による死亡者数は96人で対前年度5人減、死傷者数は189人で対前年度26人増でした。
- 身体障害者の方に係る踏切事故は、2件(聴覚障害者の方が第3種踏切道で1件、肢体不自由の方が第1種踏切道で1件)でした。

図10: 踏切事故の件数及び死傷者数の推移



<sup>11</sup> 「踏切事故」については、後掲の「用語の説明」をご覧ください。

図11:踏切事故による死傷者数の年齢別人数(平成28年度)



※年齢の把握ができなかった場合は、除いています。

※高齢者(65歳以上)については、第1種踏切道における死亡者数は41人、負傷者数は9人、第3種踏切道における死亡者数は3人、負傷者数は1人、第4種踏切道における死亡者数は7人、負傷者数は2人です。

## (2) 踏切種別別・衝撃物別及び原因別の踏切事故件数等

○平成28年度に発生した踏切事故223件の踏切種別別<sup>12</sup>の内訳は、第1種踏切道184件(82.5%)、第3種踏切道8件(3.6%)、第4種踏切道31件(13.9%)となっています。

○衝撃物別の内訳は、自動車97件(43.5%)、二輪11件(4.9%)、自転車などの軽車両25件(11.2%)、歩行者90件(40.4%)となっています。

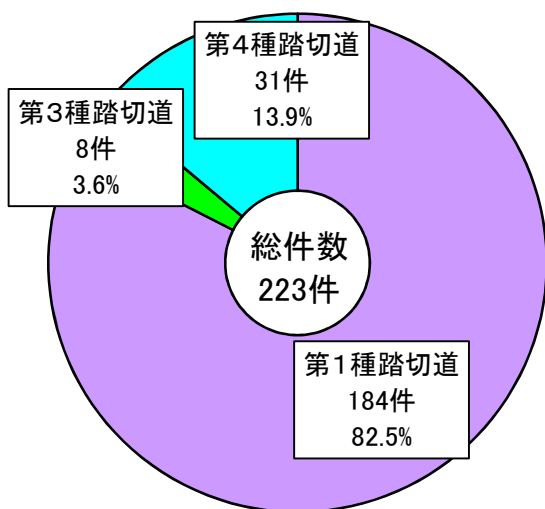
○原因別の内訳は、直前横断125件(56.1%)、落輪・エンスト・停滞61件(27.4%)、側面衝撃・限界支障21件(9.4%)、その他16件(7.2%)となっています。

<sup>12</sup> 踏切種別には第1種踏切道、第2種踏切道、第3種踏切道、第4種踏切道があります。詳細については、後掲の「用語の説明」をご覧ください。

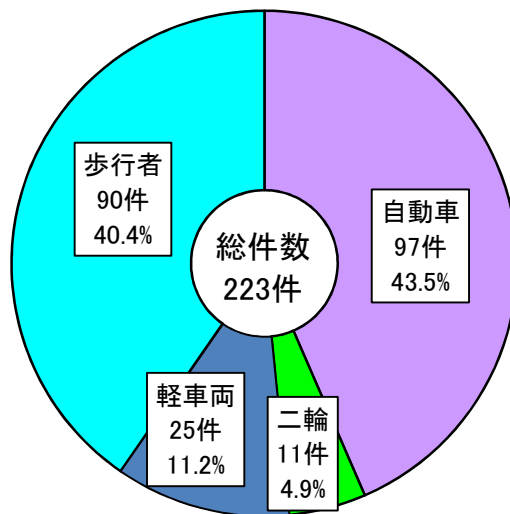


図12：踏切種別別、衝撃物別、原因別及び関係者年齢別の踏切事故件数(平成28年度)

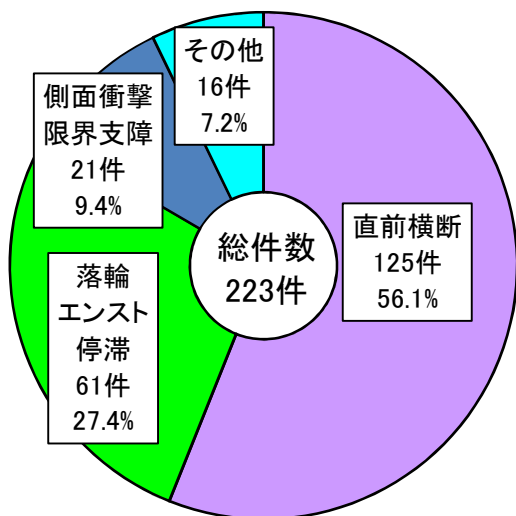
① 踏切種別別



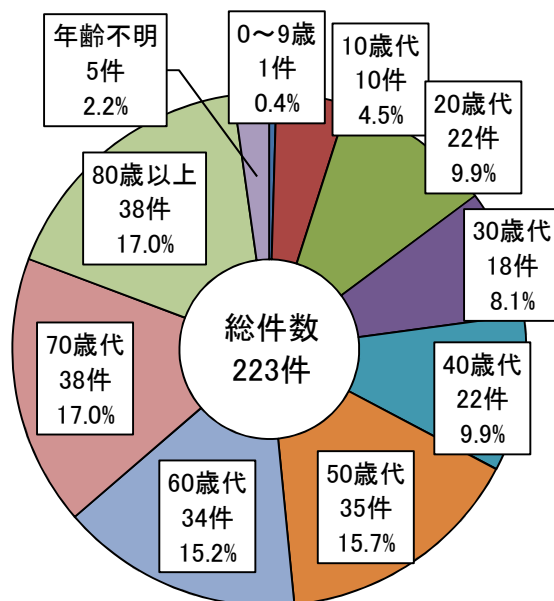
② 衝撃物別



③ 原因別



④ 関係者年齢別



※高齢者(65歳以上)の件数は、91件

側面衝撃・限界支障：自動車等が通過中の列車等の側面に衝突したもの及び自動車等が列車等と接触する限界を誤って支障し停止していたため、列車等が接触したもの

落輪・エンスト・停滞：自動車等が落輪、エンスト、交通渋滞、自動車の運転操作の誤り等により、踏切道から進退が不可能となったため列車等と衝突したもの

関係者年齢：関係者年齢とは歩行者等の年齢(自動車にあつては、運転者の年齢)

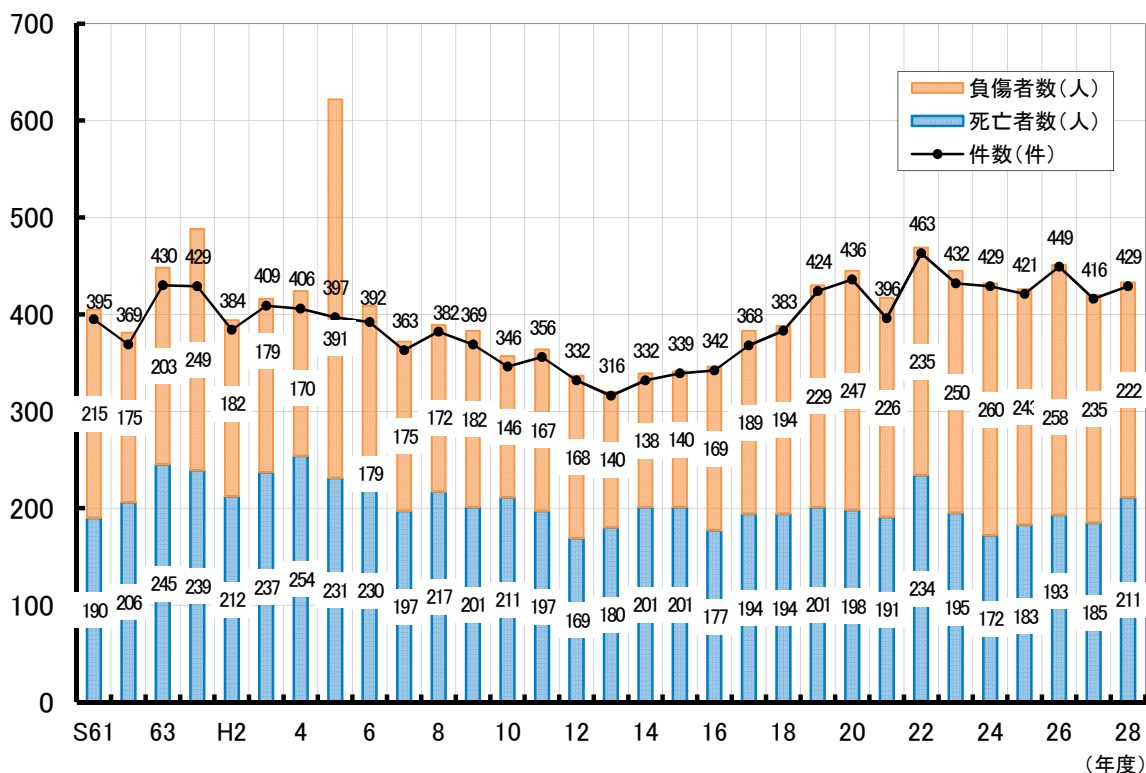
## 2. 4 人身障害事故の発生状況

### (1) 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移等

○平成28年度に発生した人身障害事故は、2. 1(3)に記述したとおり、運転事故全体の60. 0%に当たる429件で対前年度13件増、人身障害事故による死亡者数は211人で対前年度26人増、死傷者数は433人で対前年度13人増でした。

○身体障害者の方が死傷した人身障害事故は5件(視覚障害者の方の事故が3件、聴覚障害者の方の事故が1件、肢体不自由の方の事故が1件)でした。

図13： 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移



### (2) 原因別の人身障害事故件数等

○人身障害事故の原因別の内訳は、公衆等が無断で線路内に立ち入る等して列車等と接触したもの(線路内立入り等での接触)が230件(53. 6%)で対前年度23件増、これによる死亡者数は182人で対前年度28人増でした。

○旅客等がプラットフォームから転落したことにより列車等と接触したもの(ホームから転落して接触)及びプラットフォーム上で列車等と接触したもの(ホーム上で接触)を合わせた「ホームでの接触」は187件(43. 6%)で対前年度11件減、このうち、視覚障害者の方の事故は3件で対前年度3件増でした。

- 「ホームから転落して接触」は60件(14.0%)で対前年度21件増、これによる死者数は23人で対前年度5人増でした。
- 「ホーム上で接触」は127件(29.6%)で対前年度32件減、これによる死者数は5人で対前年度5人減でした。
- その他、鉄道係員の作業誤り等によるものは12件でした。

図14：人身障害事故の原因別の件数及び死傷者数(平成28年度)

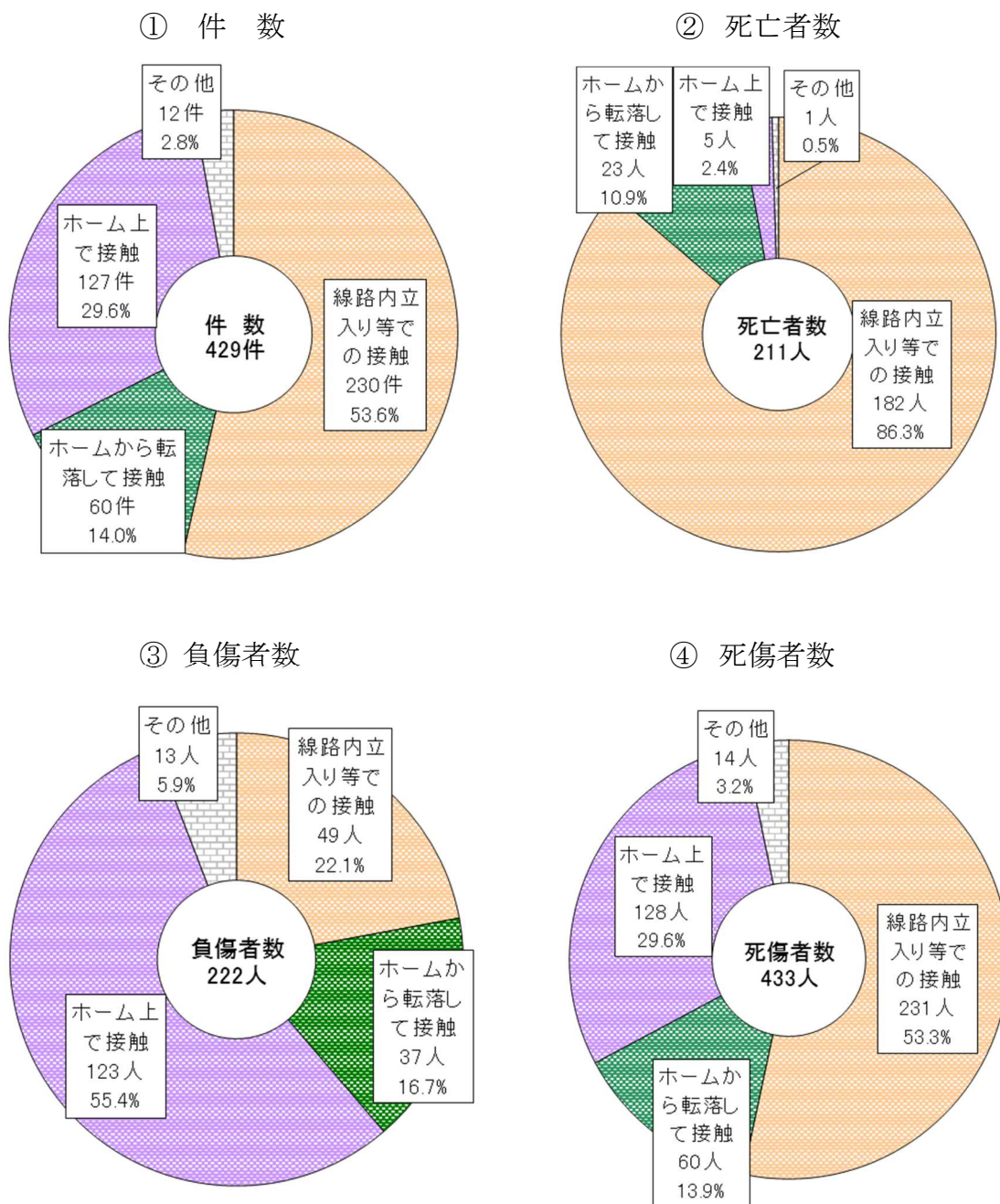


図15: 人身障害事故の原因別件数の推移

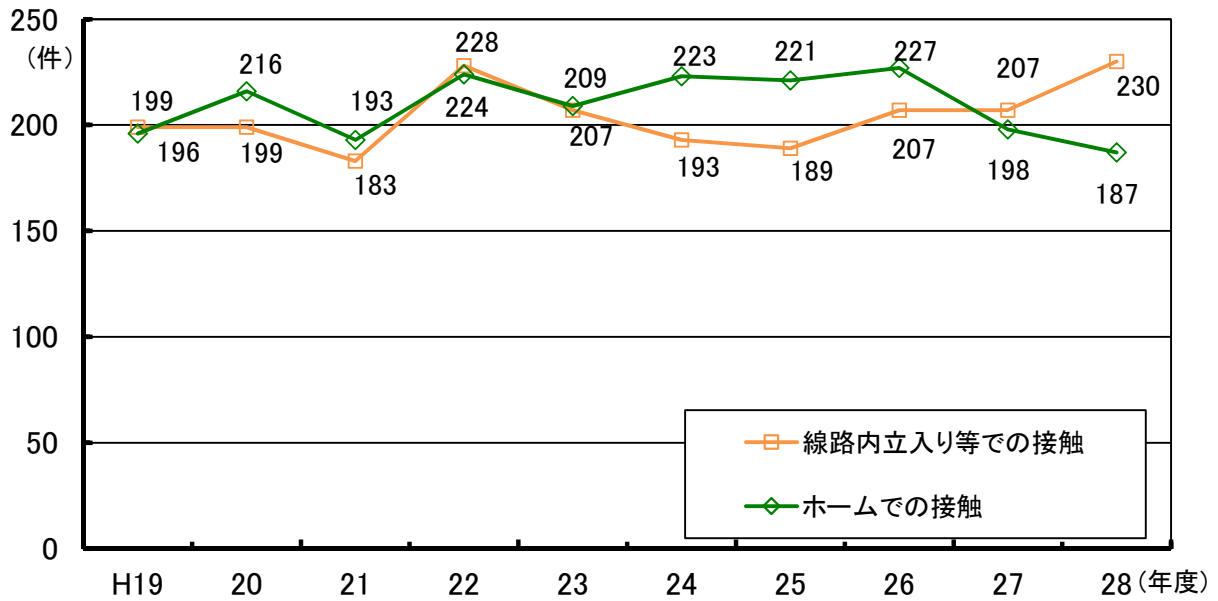
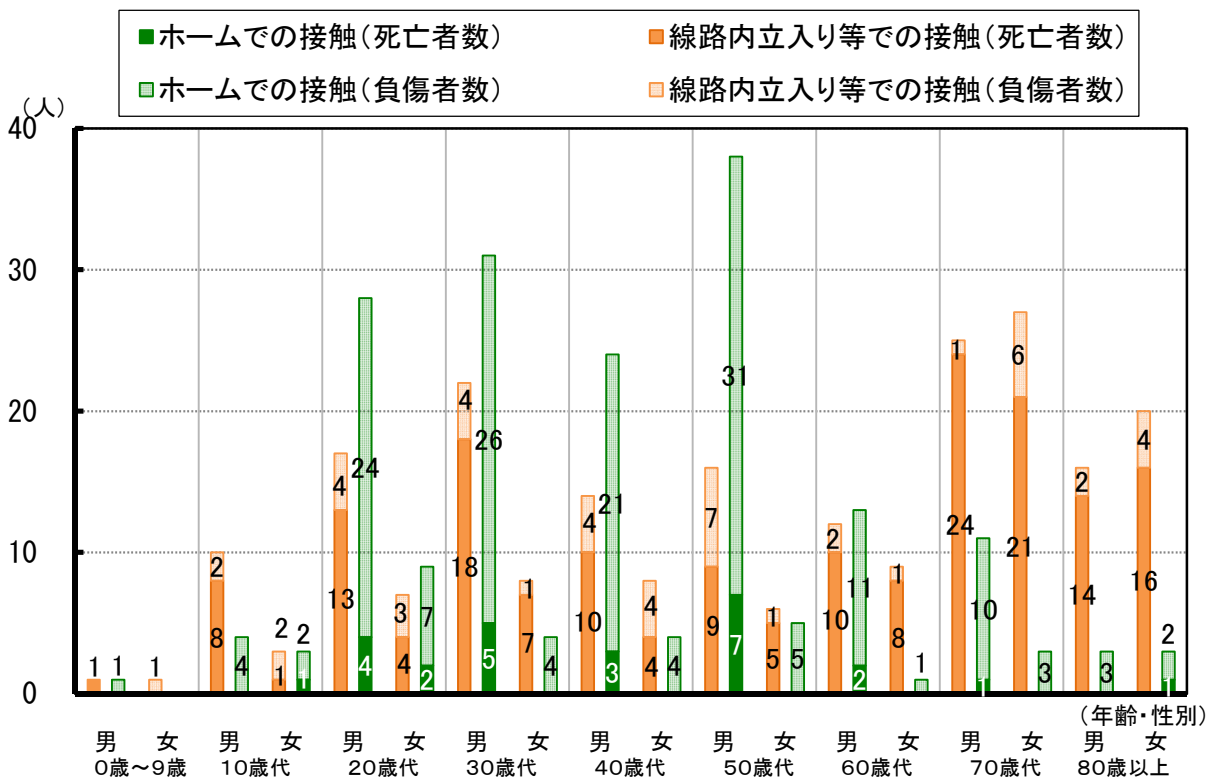


図16: 人身障害事故による死傷者数の年齢別人数(平成28年度)



※年齢の把握ができなかった場合は、除いています。

※高齢者(65歳以上)については、ホームでの接触による死亡者数は2人、負傷者数は20人、線路内立ち入り等での接触による死亡者数は80人、負傷者数は14人です。

## 2.5 事業者区分別の運転事故件数

○事業者区分別の運転事故件数は、表4のとおりです。

表4:事業者区分別の運転事故件数(平成28年度)

事業者区分		事故種類							合計
		列車衝突	列車脱線	列車火災	踏切障害	道路障害	人身障害	物損	
JR(在来線)			6		98		231	2	337
JR(新幹線)			1				2		3
民鉄等			5		121	1	193		320
大手民鉄			1		61		136		198
公営地下鉄等							34		34
新交通・モノレール									0
中小民鉄			4		60	1	23		88
路面電車		3	4		3	42	3		55
合計		3	16		222	43	429	2	715
地域鉄道(再掲)		2	6		59	36	18		121
地域鉄道(鉄道)			3		57	1	17		78
地域鉄道(軌道)		2	3		2	35	1		43

※1 「大手民鉄」は、東京地下鉄を除く15社です。

※2 「公営地下鉄等」は、東京地下鉄を含みます。

※3 「中小民鉄」は、準大手鉄道事業者を含みます。

※4 「地域鉄道」は、11ページの脚注7をご覧ください。